

『コラボノート』で楽しい協働学習

北海道石狩市立紅南小学校(「フューチャースクール」推進事業)研究指定校)の取り組み

子ども同士がお互いに教え合い、学び合う「協働学習」と学校の枠を超えた「交流学習」が実現するソフトウェア『コラボノート』。平成22年度からの総務省「フューチャースクール推進事業」、文部科学省「学びのイノベーション事業」の研究指定校33校でも採用され、教育効果に関する検証が進められている。そのうちの1校、石狩市立紅南小学校(根本書夫校長、生徒数435人)は、全校で『コラボノート』を積極的に授業に活用している。

新聞づくり、学級文集「ネイバート」も

「学習指導要領に示され「パソコンしんぶん」思いの育成」を掲げ、コミュニケーション能力の育成を目標として、授業のなかで積極的に活用している。例えは前多教諭の場合、子どもたちは4人1組を班を構成。それぞれが「ネイバート」能力の育成を目標として、授業のなかで積極的に活用している。例えは前多教諭の場合、子どもたちは4人1組を班を構成。それぞれが「ネイバート」能力の育成を目標として、授業のなかで積極的に活用している。

コミュニケーション能力や心のやさしさも育成

「ネイバート」能力の育成を目標として、授業のなかで積極的に活用している。例えは前多教諭の場合、子どもたちは4人1組を班を構成。それぞれが「ネイバート」能力の育成を目標として、授業のなかで積極的に活用している。



タブレットPCを1人1台使用

『コラボノート』は、強力な協働学習ツール

中川一史・放送大学ICT活用/遠隔教育センター教授



中川一史教授

ICTを活用した協働学習をどのように進めるか、という点をよく耳にするようになった。2011年4月に公表された文部科学省の教育の情報化「ビジョン」も、発表の共同編集が可能な。教師も子どもたちも、プロの編集者やライター、デザイナーなど、多岐にわたるスキルを必要とする。『コラボノート』は、そうしたスキルを必要とする。『コラボノート』は、そうしたスキルを必要とする。



新谷浩一教諭(左)と前多香織教諭(右)

『コラボノートfor School』で「協働学習」+「交流学習」

「私たちは、よりよいコラボレーションの創造を通じて、社会に貢献していきたい。『コラボノートfor School』は、この思いを実現するためのツールです。協働学習や単元のまとめ、交流学習などの「協働学習」を通じて活用型学力や探究型学力を育成するソフトウェア。子どもたちが自由に生き生きと使いたいという思いが込められています。グループのみんなで協力して新聞づくり。2010年～2011年には、総務省「フューチャースクール推進事業」、文部科学省「学びのイノベーション事業」の研究指定校33校で採用され検証が進められている。



交流校から質問や感想の書き込み



グループのみんなで協力して新聞づくり

校務の情報化に確かな手応え

『コラボノート for Public』の活用

岡山県玉野市教育委員会では、市内の中小21校との「情報共有ツール」として平成22年3月から『コラボノート for Public』を導入した。当初は教育委員会から「学校への情報発信用ソフト」として活用されていたが、徐々に活用事例が増え、1年後には各校の養護教諭や事務職員間、さらには管理職教員間で「機」の情報共有の活性化が始まった。

岡山県玉野市教育委員会

岡山県玉野市教育委員会では、市内の中小21校との「情報共有ツール」として平成22年3月から『コラボノート for Public』を導入した。当初は教育委員会から「学校への情報発信用ソフト」として活用されていたが、徐々に活用事例が増え、1年後には各校の養護教諭や事務職員間、さらには管理職教員間で「機」の情報共有の活性化が始まった。

『コラボノート for Teacher』

『コラボノート for Teacher』は、教職員の負担軽減を目的とした。教員の多忙の原因とされる教務以外のさまざまな諸作業。学校経営向けの『コラボノート for Teacher』は、そうした教職員の負担を減らすためのソフトとして、多くの学校が導入し始めている。基本的なソフトの形態は、その他の『コラボノ

コラボノートで交流学習

ジェイアール四国コミュニケーションウェアが 交流学習・協働学習をサポートします!



コラボノート導入校は、すぐにご利用いただけます。採用ご検討中の学校様も、ご相談ください。

- ### コラボノートの交流サーバーを使ってこんなこと...
- インターネット等を活用して、地域の人々や全国の学校の子どもたち、さらには社会教育施設、研究機関等の専門家等との交流がはかれます。
 - 地域の大人へのインタビューや植物の観察、情報端末での撮影等により、必要な情報を収集するとともに、気づいたことを記録します。
 - コラボノートへの書き込みを電子黒板等で一言に共有し、発表・討議を行います。
 - 自己の意見や他者の意見について、観点ごとに分類・整理する場合に有効です。



学校間交流希望校募集!

担当者にお問い合わせください。

第一回 応募作品公開中! 協働実践コンテスト 検索
「協働」実践コンテスト

「コラボノート」を実際に体験!
東京コラボレーションルーム開設
JR「品川」駅南口徒歩10分・都営地下鉄「泉岳寺」駅徒歩1分
お問い合わせ: 電話03-3473-1210

【お問い合わせ】 株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェア コラボノート交流学習担当
フリーコール: 0120-999-687 (固定電話専用) TEL: 087-821-4520
ホームページ: <http://www.collabonote.com/edu/>

※コラボノートは株式会社ジェイアール四国コミュニケーションウェアの登録商標です。